

CONTENTS

- シリーズ この人に聞く 第26回  
2-3 日本地雷処理を支援する会 道幸孝久さん  
大地に平和を取り戻す  
——紛争地の地雷・不発弾処理を担う日本人
- 新連載 ボランティアのおしごと  
4 第2回 学習協力チーム  
世界の現状を伝えたい
- セミナー講演要旨  
5 「危機に直面する子どもたち——  
紛争・災害・虐待」
- Bravo No.14  
6 大阪ユニセフ協会に続け!  
私たちもやってみよう!





# 大地に平和を取り戻す

## ——紛争地の地雷・不発弾処理を担う日本人



どうこう たかひさ  
道幸 孝久さん

日本地雷処理を支援する会  
2022年6月末まで事務局長。現在は理事兼非常勤職員

対人地雷の被害を食い止めるために1997年に結ばれたオタワ条約。被害当事国に埋設地雷の除去等を義務付けるとともに、その他の国は地雷除去や被害者支援等の地雷対策について資金や技術面で支援することが規定されています。これは従来の軍縮条約には見られない取り決めで、そのためオタワ条約は「人道条約」とも言われています。NPO法人「日本地雷処理を支援する会」は活動を始めて20年。地雷・不発弾なき世界を願う、その息の長い活動を事務局長の道幸孝久さんにお聞きしました。(近藤敦子)

### 生き続ける脅威

——地雷はいつごろから使用されたのですか？

**道幸** 1861年から始まった米国の南北戦争には地雷のような仕掛けが登場し、第一次世界大戦で対戦車地雷が、第二次世界大戦で対人地雷が始まったと言われています。

——地雷は簡単に作れるのですか？

**道幸** 仕組みは簡単で、費用も数百円ほどで作れます。かつては金属製でしたが、最近はプラスチック製が多くなっています。

——世界中でどのくらい地雷が埋まっているのでしょうか？

**道幸** 「ランドマインモニター」という地雷にまつわる情報をまとめた報告書によれば、2020年で6,000万発から7,000万発だと言われています。現在、世界で地雷を保有していると考えられる国は32カ国。1990年代は120以上の国が持っていましたから、減少しています。

——しかし、紛争地では地雷による被害が続いています。

**道幸** 2020年の世界の地雷による死傷者は7,073人でうち死亡が2,492人、負傷者が4,561人、生死不明は20人、1,872人の子どもが被害を受けています。民間人は80%を占めています。地雷は一度埋められたら40年でも50年でも生き続けます。戦争終了後、何年も経ってから関係のない民間人が被害に遭う。「悪魔の兵器」と言われる由縁です。

——「地雷を踏む」と言いますが、危険性はどのようなものですか？

**道幸** 地雷は地面からわずか3～5 cmほどの深さに埋められ、わずか2～5 kgの力で爆発

します。

——たった2 kgですか……。

**道幸** 片足を載せただけで、人が踏むまでもありません。助かる確率が高いのですが、重傷だと手足を失う。程度によっては生活に支障をきたします。対人地雷にはさまざまなタイプがあり、地雷から罫線(びな)を引っ張って、それに足を引っかけると地雷が飛び出し破片を撒き散らすものや、最近では冷蔵庫を開けたら爆発するように仕組んだ即席爆弾(IED)も使用されています。

子どもが犠牲になることの多いのはプロペラやボール型をしたもので、上空から撒かれた散布型地雷やクラスター爆弾です。子どもは知らずに投げて、衝撃を与えた途端爆発します。クラスター爆弾はラオスに多く見つかっています。

——対戦車地雷は？

**道幸** 重量は8 kg程度で、120～150 kgのほどの圧力がか



処理作業中のCMAC(カンボジア地雷除去活動センター)隊員。地雷探知機を使う



からないと爆発しません。大型なので金属探知機ですぐに見つかりますが、信管（起爆装置）を外して地面から持ち上げたら爆発したり、上に丸太を置いて見つかりにくいように仕掛けられてあったりするので、除去には細心の注意が必要です。爆発したら、その威力はすさまじいものです。

## 戦闘の過去を乗り越えて

—除去はどのように進めるのですか？

**道幸** 藪などで、まず木を地面から10cmほど残して切り、スタートラインから数十cm幅で地面にロープを張ります。作業員は横並びになって、金属探知機を当てます。ピッピッと音がしたら目印をし、脇から探知棒を入れて存在を確認します。慎重に掘り出し、爆破処理します。なかには傾けただけで爆破するものもあり、探知棒を入れるのも危険な作業です。この作業を数十cmずつ繰り返しながら前進するので、まるで尺取虫だと言っています。ある程度調査をして、対戦車地雷がないと分かれば、対人地雷除去機を入れる場合もあります。ブルドーザーの前面に鎖が付いたもので、地雷を破壊しながらどンドン土を掘り起こしてゆきます。人がやるより格段に早く処理できます。除去し終わったら、もう一回探査をかけ、安全が確認できたら地元へお渡しします。

—その土地はどのように使われますか？

**道幸** 地雷処理をした跡地は、その後発展しています。農地になったり、道路が敷設されたり、スーパーマーケットや学校が建設されたりしています。道路ができたおかげで、町から野菜を買い付けに来るようになったとか、「子どもを学校にやれるようになった」と聞いて、うれしかったですね。

—地雷は減っているのですか？

**道幸** JMASと共に活動している機関も含めての数字ですが、JMASはこれまで42万発、7,267ヘクタールの土地を安全化しました。除去した地域の拡大とともに、さまざまな対策も功を奏しています。例えば、①国が村を回って聞き取り調査をし、戦闘や被害のあった事実を把握することで、危険

地域の線引きができるようになった。②「危険回避教育」が徹底して行われ、子どもも大人も危険地域には近づかなくなった。③売れば金になると手を出し、被害に遭う人が多かった不発弾はいたる所に転がっていたが、今はほとんど片付いた、といった状況の改善によるものです。

## 技術を伝える重要性

—パラオとミクロネシアでも活動されていますね。

**道幸** 爆雷の処理と油回収をやっています。爆雷とは潜水艦を沈めるためのもので、太平洋戦争当時、日本軍は徴用した民間船に載せて運びました。しかし米軍の攻撃を受け、爆雷を積んだまま船が沈んでいます。爆雷は1つ160kg。ピクリン酸という軍用の爆薬が海洋汚染、環境破壊につながるために、引き上げては陸上で焼却処分をしています。500発ほどのうち200数十発を処理し、残りを引き上げているところです。ほかにも小さなタンカーが油を抱えたまま沈んでいるので、漏れてきた油を回収したり、船の状態を調査したり。終戦から77年経ちましたが、未だに戦後が続いています。

—JMASの今後の活動は？

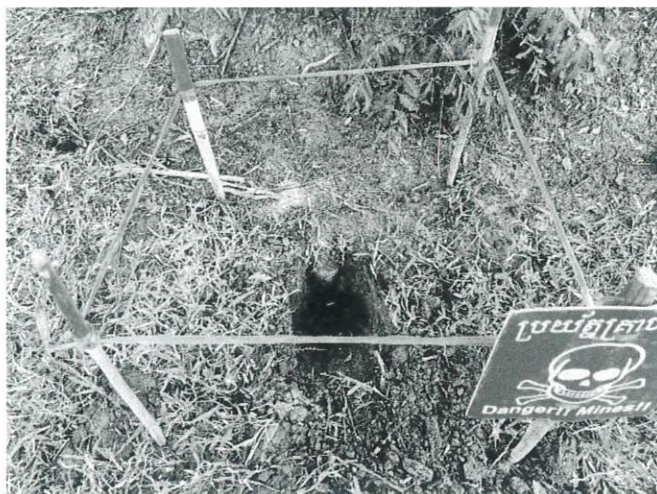
**道幸** 地雷・不発弾問題の根本的な解決は除去にあると考え、処理技術の普及に取り組んできました。地雷・不発弾の除去について、ほかにもできる団体もないので\*、JMASの活動の柱として外せません。ただJMASのメンバーも20人ほどで限界がありますので、とにかく技術を伝えることが大事です。これからも現地の人たちに技術を教え、地雷・不発弾のない世界を広げてゆきたい。そして、今後はSDGsにも取り組んでいきたい。

—最後に、ロシアの軍事侵攻を受けるウクライナにも地雷の被害が出ています。今回の事態をどう思われますか？

**道幸** 破壊し尽くされた光景を見て、復興までに相当の年数がかかることを思うと、虚しさを感じます。他方、国際関係の厳しさ、防衛の大切さを改めて痛感しました。

\*規模は小さいが、愛媛県松山市のIMCCDが地雷除去活動を行っている。

(インタビューは2022年6月27日実施)



発見された69式対人地雷

### 日本地雷処理を支援する会 (Japan Mine Action Service : JMAS)

1992年、自衛隊は国連平和維持活動(PKO)の一環としてカンボジアに派遣され、道路建設に従事した。その仕事ぶりが評価され、2001年にカンボジア側から地雷処理を日本がやってほしいと依頼を受け、元自衛官を中心にNPO法人を結成。これまでカンボジア、ラオス、アフガニスタン、アンゴラなどで地雷・不発弾処理を行い、現在は処理跡地における農業指導にも支援を広げている。

ちなみにJMASの事業は、外務省からの補助金による事業と自己資金(寄付金)による事業の2種類で、そこから活動に必要な経費が賄われている。日本人にかかる経費の相手国負担は求めていない。(https://www.jmas-ngo.jp)



# ボランティアのおしごと

## 第2回 学習協力チーム



## 世界の現状を伝えたい

大阪ユニセフ協会の活動を通して、ボランティアについて考えます。



ユニセフ知っている？

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたため、出前授業の依頼が徐々に増えてきています。特に最近増えているのが「持続可能な開発目標(SDGs)」についてです。SDGsは17項目もの目標があるので、ユニセフが特に関わっている貧困、飢餓、健康、教育、水にテーマを絞って話を進めています。

6月15日に東三国小学校の4年生2クラス44名を対象に45分×2コマの出前授業が行われました。意識の高い大人を相手に話をするのは違い、世界地図も習っていない小学4年生を相手に集中して話を聞いてもらうには相当な工夫と覚悟が必要です。

前半、パワーポイントを用いてユニセフの歴史から理念、活動内容の説明から始まります。さらに、支援を必要としている子どもたちがこの世界に存在しているという現実を、少しでも子どもたちの心に残るように伝えていきます。日本ユニセフ協会が作成したプレゼンテーションのひな型を基に、対象学年、希望テーマに沿って編集するのが一苦勞です。

後半は、フォトランゲージと呼ばれる学習法です。写真を

見てどういう状況の写真であるか、自分たちにできることは何かを考えてもらう学習法です。井戸を掘っている様子や片足義足の女の子などの6種類の違った写真を班単位で見、感じたことを自由に発表してもらいます。その時々テーマに沿った画像を探し、準備するのもボランティアの地道な仕事です。

授業をする側は、SDGsを切り口にしてユニセフを語ることに難しさも感じています。開発途上の国の子どもたちに私たちが直接、何ができるのか即効性のある答えを持ち合わせていないからです。子どもたちが自ら募金の必要性を感じ、長く寄付を継続してもらえるように地道に何度でも話をし続けるしかないのかもしれない。

有難いことに、NHKはその映像を学習目的に使用することを許可してくれています。その卓越した映像の力は惨状を理解するのに大きな助けになります。仮想空間を活用すればアフリカを訪れ、飢餓に苦しむ子どもたちを目前にすることも夢ではなくなりました。誰にでも出前授業ができるように教材を充実させ、それを使いこなせる人材育成が欠かせません。ぜひデジタル世代の方々のお力をお借りしたいのです。

(鴻池智美)



フォトランゲージ



初めて見る地雷



## ユニセフセミナー大阪 2022

## 「危機に直面する子どもたち—紛争・災害・虐待」

2022年7月2日開催

於：大阪市中央公会堂大会議室

会場 37名 / オンライン 26名参加

## 講演1 「紛争下のイエメンから—ユニセフ支援活動報告」

小川亮子 (ユニセフイエメン事務所 子どもの保護専門官)



イエメンからオンライン講演となった小川亮子講師

2022年4月から2カ月ごとの停戦となり、このまま紛争が終結してほしいと願っています。

紛争による国内避難民は430万人、そのうち200万人が子どもで、7年に及ぶ戦闘は子どもたちに深刻な影響を及ぼしています。殺傷の犠牲、子ども兵士、心理的トラウマ、家族離散、家の喪失などといった精神的・心理的負担のみならず、学校・病院へのアクセスができない、ワクチンが受けられない、衛生的環境の悪化、本来避けられる病気の罹患、食糧不足・栄養不足、経済的困窮、性暴力・ドラッグの危険など、本来子どもに必要なことが満たされていない状況が事態を悪化させています。ユニセフは保健、栄養、水と衛生、子どもの保護、教育の各分野にバランスを保ちながら支援を行い、とりわけ子どものこころのケアに力を入れています。

しかし、支援のために必要な予算4億8千400万ドルに対して、わずか27%が確保されただけで、大幅な資金不足になっています。このセミナーでイエメンの子どものことが心に残り、これからも支援していただければ嬉しいです。

(作成・近藤敦子)

## 講演2 「災害・虐待と子どものストレス/トラウマケア」

亀岡智美 (兵庫県こころのケアセンター副センター長/精神科医)

**【要旨】** 我が国における子どものさまざまな被害体験があり、児童虐待、学校での暴力、保育所での災害、いじめ、東日本大震災、児童売春、児童ポルノの問題があります。

トラウマという言葉をよく聞くことが多くなっている昨今、体には守るための免疫力があるように、過剰な刺激によりこころの防護壁が壊されて長期的な悪影響を与えてしまいます。トラウマは身近なもので、たくさんの人が体験するもので、児童・青年のトラウマ体験の多くは女子、対人間で起こります。社会、学校、家庭など、さまざまな関係を分断して、広範囲な影響を与えてしまいます。他の人には何でもないことが、トラウマの人はほかの人には何でもないことでも、心が強く反応してしまいます。ほとんどの人が回復するのですが、一部の人はケアを必要とします。半年を過ぎても症状が活発であると、回復の見込みがなくなり、神経症、PTSDになっていくことがあります。

トラウマを抱える人たちへのケアとして医療・保健・福祉・教育・司法などの領域があり、支援する多くの人たちがトラウマに関する知識や対応を身につけて行うケア(TIC)があります。い



亀岡智美講師

つもの先生や友だちがいる学校が心を落ち着かせ、特に親と子のアタッチメント(愛着)が大切です。支援者が感情に寄り添う対応が必要になり、こころにケガをしていることを本人に気づかせること、希望を持たせることが重要になります。

またその子を守れなかったという恐怖がストレスとなることもあり、支援者のケアも同時にしていかなければならない現状があります。

(作成・末広 隆)



## 御堂筋ふれあいバザー

5月18日 御堂筋大阪ガスビル前

新型コロナが落ち着いて、ようやく定例イベントが再開しました。ビジネスの中心地、御堂筋の大阪ガスビル前で開催される“小さな灯”運動のふれあいバザーです。各地の作業所も多く出店して、手作りの小物やお菓子が並んでいます。初夏の爽やかな陽気のなか、活気あふれる街を見ていると、日本は平和な国だと実感します。「ウクライナの子どもたちにご支援を！」との呼びかけにも力が入り、手応えを感じた一日でした。(近藤敦子)



御堂筋ふれあいバザー

## ユニセフを考える1冊

『アクティビストあつまれ! みんなで平等をつくる』

シャノン・ウェバー 亜紀書房 2022年1月



『「アクティビストって? 社会の問題について、声を上げたり、行動を起こしたりする人。つまり、この本を読んでいるみんなのこと(本文より)」。

ジェンダー(男らしさ、女らしさから思い浮かべる特徴や意味あい) 平等をめざす活動「フェミニズム」、人種差別や白人至上主義から生まれる「カラリズム」、多様な性を認める「LGBTQ+」、障害者への不平等と差別「エイブリズム」。よその国から来た人や、異文化への反感を持つ「ゼノフォビア(外国人恐怖)」、社会の中で複数の宗教が平和に共存できる「宗教多元主義」……。この世界の間違いや不平等はたくさんあり、そして生まれる理想がある。これはそこへ立ち向かって変化を起こそうと、勇気ある子どもや大人を紹介した本なんだ。何より「子どもたちはかけがえのない、大切に必要、未来をつくり生きていく存在」だということを伝えている。みんなと一緒に考えよう。(前田真子)

豆知識

ジェンダーギャップ指数  
日本は116位/146カ国

初等・中等教育(小・中・高校)では世界1位ランクだが、政治(139位)と経済(121位)分野での遅れが課題。1位アイスランド、最下位アフガニスタン。世界で男女平等を達成できるのは132年後。(世界経済フォーラム 2022年7月発表)

No.14

Bravo

## 大阪ユニセフ協会に続け! 私たちもやってみよう!

岡山ユニセフ協会 梶岡春花

ユニセフパネル展を目にしたことはありますか? 世界に暮らす子どもたちの真実の瞬間を切り取った写真は、言葉で簡単に言い表せないような強いメッセージを語りかけてきます。見た人ごとに解釈が存在し、自分のペースで楽しめる点がパネル展の良さだと考えています。またコロナ禍において非接触で開催できる点でも需要は高まり、出展依頼が急増しています。

しかしながら独自で写真パネルを持っていないため、たびたび大阪ユニセフ協会からお借りしてきました(いつも快く貸してくださり本当にありがとうございます)。

テーマ決定、写真選定、プリント、パネルに貼り付け……等の工程を丁寧に手作りされたパネルは綺麗で見やすく大好評! 最近ではコロナの影響やウクライナの状況といったテーマのものをタイムリーに作成され、活発さと

熱心な取り組みに感銘を受けずにはられません。

そしてこのたび、私たちもやってみよう! と奮い立たせてもらって念願のパネルづくりをしました。作成したものは早速県内の学校へ。今後も情熱をもって挑戦を続けることで、地域の方々や世界の子どもたちについて考える機会を創造していきたいです。





## 活動日誌

2022年5月～7月

## 5月

- 4日(水) セキスイこどもの日チャリティイベント(～5日)/写真展『ウクライナ危機と子どもたち』、募金活動・ミニバザー於:新梅田シティ(弓場、柴田、田辺、住本、長崎、藤本、大教大・廣川)
- 5日(木) (萬浪、田辺、竹中、田中伸、大澤、角野、大教大・越智、榎本、盛林)
- 7日(土) 来室/ユニセフ資料購入
- 9日(月) 下見/ユニセフセミナー会場 大阪市中央公会堂(関雄、関本)
- 11日(水) 運営委員会▽ユニティ Zoom ミーティング(中田)
- 12日(木) 来室/(株)スワールコミュニケーションズ・三枝氏:ホームページ作成の件(竹原・稲垣・宮島)▽ボランティア保険登録
- 13日(金) 募金送金/日本ユニセフ協会▽来室/産経新聞・河合氏(宮島)
- 14日(土) 出前授業打合せ(楨野、大教大・廣川、越智)
- 17日(火) 大阪通信86号着荷/発送作業開始
- 18日(水) 大阪ガスビル前『御堂筋ふれあいバザー』(近藤、作田、兼田、松本桃)▽来室/ガールスカウト連盟▽消毒液とマスク(大阪ガスより)
- 19日(木) 来室/ウクライナ募金持参:向陽学園厚生会
- 21日(土) 広報活動/四天王寺(堀越、伊山、峰松、大教大・榎本・盛林)
- 22日(日) 広報活動/四天王寺(堀越、峰松、前田真、大教大・越智、榎本)
- 24日(火) 来室/ボランティア1名登録▽来室/ユニセフシアター候補作品試写/大阪暁光高等学校・堀田先生、専修学校クラーク高等学院大阪梅田校・川原先生、佐湖氏(宮島、近藤)
- 25日(水) ボランティア連絡会▽スワールコミュニケーション契約書送付(竹原)
- 26日(木) ボランティアだよりNo.200他送付
- 27日(金) 訪問/写真展会場下見 於:千里中央コラボ・田中館長(萬浪、関美)
- 28日(土) 来室/ユニセフシアター打合せ大阪暁光高等学校・堀田先生、専修学校クラーク高等学院大阪梅田校・佐湖氏(近藤、宮島)
- 31日(火) 写真展『ユニセフとめざすSDG's～水・教育・保健』(～6/12) 於:枚方市立香里ヶ丘図書館▽募金受取/大阪市立粉浜小学校(弓場)

## 6月

- 1日(水) ユニティ Zoom ミーティング(中田)
- 6日(月) 出前授業/大阪府立桜宮高等学校(楨野、山田、大澤)
- 7日(火) 来室/スワールコミュニケーションズ・三枝氏(竹原、住本、宮島)
- 8日(水) 運営委員会▽募金持参/領木氏▽大阪通信編集会議(平田、末広、近藤、鴻池、宮島)
- 10日(金) 出前授業/YMCA 学院高等学校(関雄、大澤)▽広報活動/大阪ガスビル前『御堂筋ふれあいバザー』(関美、竹中、峰松)
- 11日(土) 来室/大阪暁光高等学校・堀田先生
- 14日(火) 出前授業/大阪市立東三国小学校(住本、小山、鴻池)N
- 15日(水) 来室/ユニセフ学習:大阪府立東高等学校4名(住本)▽ユニセフシアター作品検討会/大阪暁光高等学校・堀田先生、専修学校クラーク高等学院大阪梅田校・佐湖氏(近藤、宮島)
- 16日(木) 募金受取/豊中市立蛭池小学校児童会(関美)
- 17日(金) ユニセフ学習講師研修会 Zoom(小山)
- 21日(火) 瀧本ひろこ氏外国コイン受取(関雄)▽出前授業/大阪市立東三国小学校(住本、山田)N▽広報活動/四天王寺(堀越、峰松、村上、中野)
- 22日(水) 広報活動/四天王寺(堀越、大澤、大教大・太田)
- 23日(木) ボランティア登録1名
- 27日(月) 「大阪通信」87号「この人に聞く」インタビュー (Zoom) 日本地雷処理を支援する会 (JMAS)・道幸孝久事務局長(近藤)N
- 28日(火) 写真パネル送付/岡山ユニセフ協会N
- 29日(水) ボランティア連絡会▽外国コイン・紙幣持参
- 30日(木) オンライン/子供にやさしいフォーラム CFCIフォーラム(小山参加)
- 7月
- 2日(土) ユニセフセミナー大阪2022『危機に直面する子どもたち』於:大阪市中央公会堂(参加者会場37名オンライン26名)講師:ユニセフイエメン事務所子ども保護専門官・小川亮子氏、兵庫県こころのケアセンター副センター長・亀岡智美氏N
- 5日(火) 来室/高槻市立阿武野中学校3年生5名「貧困について学習」(住本)
- 6日(水) 募金受取/大阪市立磯路小学校(作田)▽オンライン授業/島本町立第一小学校(萬浪)▽ユニティ Zoom ミーティング(中田)
- 7日(木) ボランティア保険2名加入

- 8日(金) 出前授業/大阪教育大学(楨野)▽下見/守口大枝公園(弓場、関美)
- 9日(土) 募金持参/北村嘉久氏、元君、莉菜さん▽来室/大阪暁光高校堀田先生、専修学校クラーク高等学院大阪梅田校・佐湖氏・川原先生・チャン先生/ユニセフシアター打合せ(近藤、宮島)
- 11日(月) 出前授業/大阪市立平野小学校(住本、山田恵)
- 12日(火) 来室/大阪府立成美高等学校「飢餓についての学習」(楨野)
- 13日(水) 運営委員会
- 15日(金) 出前授業/大阪教育大学(楨野)▽ホームページ:メンテナンス(竹原)
- 16日(土) 来室/関西テレビ・武田氏
- 19日(火) 外国コイン持参/大阪いずみ市民生協
- 21日(木) 広報活動/四天王寺(堀越、大澤、峰松)
- 22日(金) 広報活動/四天王寺(堀越、中野、峰松)▽千里中央コラボ田中館長打合せ(萬浪、関美)
- 27日(水) ボランティア連絡会
- 28日(木) 募金持参/茨木市立養精中学校生徒2名、先生2名
- 29日(金) 中之島図書館へ「大阪通信」57号・58号送付

N印は News の略、関連記事があります



2022年3月から6月末まで募金を寄せられた皆様は下記の通りです。(大阪ユニセフ協会関係分、順不同、敬称略) 奥田敏一、(公財)毎日新聞大阪社会事業団、青田光弘、HEALTH SCIENCE INSTITUTE (NPO)、八尾市立高美小学校、金城奉逸、井開京子、兼古克子、今津孝雄・貴美代、谷本 光、井開 伸、(株)遊、大阪いずみ市民生活協同組合、「ロシアの即時撤退!ウクライナに平和を」有志ご一同、杉本啓子、(私)大阪信愛学院小学校、井上敬一、中澤善明、大阪シティ信用金庫、大阪市役所スカウトクラブ、古田秀子、黒部喜一郎、山田麻里、川島直正、(株)阪急阪神ホテルズ ホテル阪急インターナショナル募金係・松宮、濱仲記世子、大江純司、大阪市教職員組合、北村嘉久、ざくろの会代表阪本吉次郎、(社福)向陽学園厚生会、高槻市こども会連合会、大阪市立粉浜小学校、領木義久、豊中市立蛭池小学校児童会



子どもの亡くなる原因  
第2位は **下痢**



対策と予防は、経口補水療法(ORT)



経口補水液の作り方

湯ざまし (沸騰させ殺菌したものを1ℓ)	砂糖 (小さじ6杯)	塩 (小さじ半分)
-------------------------	---------------	--------------




熱中症対策にも!

## お知らせ

### ユニセフシアター第2回上映会 参加募集中

「グッド・ライ〜いちばん優しい嘘」(1時間50分)

スーダン内戦で孤児になった4人の兄妹は難民支援プログラムに応募し、アメリカへの切符を手にする。新天地での便利な生活に戸惑いながら、彼らは難民として生きる意味を問う。

日時: 2022年11月3日(木・祝) 12:30~16:00

ピースおおさか講堂

定員: 100名/参加費無料

主催: 大阪ユニセフ協会

協力: 大阪暁光高校、専修学校

クラーク高等学院大阪

梅田校、ピースおおさか

\*上映会のあと、高校生による意見発表会があります。

お申し込み  
QRコード



©2014 Black Label Media, LLC. All Rights Reserved

\*参加希望は大阪ユニセフ協会へ電話、FAX、メール、QRコードでお申し込みください。

### ユニセフ写真展 開催予定

「紛争下の子どもたち」

2022年9月1日(木)~5日(月) 10:00~16:00

千里文化センター「コラボ」(地下鉄御堂筋線千里中央駅)

募金活動を実施。写真とともに地雷に関する展示もあります。

## ボランティア募集

### ボランティア

写真展やイベントの企画と実施、コンサート会場や街頭での募金活動、事務局で資料整理、パソコン操作、ニュースレター「大阪通信」編集、学校などでの学習協力などに参加していただけます。無償です。

### 募金

ご連絡くださいれば振込用紙を送付します。公益財団法人日本ユニセフ協会への募金は所得税、法人税、相続税の寄付金控除の対象となります。

## 編集後記

先日、大阪吹田で大規模な不発弾の撤去がニュースになりました。何年たっても衰えない爆弾の怖さ。本紙インタビューでも、未だに先の戦争で海に沈んだ爆雷を処理し続けていると聞き、戦争責任の重さを考えさせられました。▽「私たちが目にする情報量は、必ずしも深刻度と比例しない」とセミナー講師のイエメン事務所小川亮子さん。世界には報道されない人道危機がたくさんあることをしっかり心に留めたいと思います。(近藤)



大阪ユニセフ協会

ユニセフ大阪通信

2022年8月15日発行

Vol.22 No.87(年4回)

制作・発行: 大阪ユニセフ協会

〒556-0017

大阪市浪速区湊町1-4-1 OCAT2F

火~土(祝日は除く)

当面午後1時~4時まで

毎週月曜、日曜、祝日は休みます

窓口担当: 宮島登美子

印刷: 株式会社 遊文舎

お問い合わせ・お申し込み

TEL: 06-6645-5123

FAX: 06-6645-5124

URL: <https://www.unicef-osaka.jp>

Email: [un@unicef-osaka.jp](mailto:un@unicef-osaka.jp)